

茨城第2ブロック予選競技 決勝進出倶楽部



1位 茨城ゴルフ倶楽部 / 469



2位 セベ・バレストロスゴルフクラブ / 471



3位 土浦カントリー倶楽部 / 484

開催倶楽部ならではのプレッシャー

通常は研修会からの選考を、今回は地元開催なので会員に呼びかけ、6回の選考会での選抜。合計480は楽に切れる選手団も、コースを知るが故のプレッシャーで惜敗です。当倶楽部はハウスキャディー制で、全員顔なじみです。ただし他倶楽部への礼節として、馴れ馴れしい振る舞いは禁止としました。(フレンドシップCC・坂本勝治キャプテン)



がんばろう日本！
ガンバろう東北！
頑張ろう茨城！



フレンドシップCCの役員、代表選手、大会運営事務局の皆様。

フレンドシップCCのキャディー部、総務部、レストランの皆様。

アテスト終了まで競技は終らない。

関係者で混雑する成績表掲示板前。



応援にも力が入る。応援ブースも盛り上がる。



左よりフレンドシップCCの村山政志社長、ベストスコア賞(A)の島村誠選手、茨城GCの稲富精之助氏、吉野統治競技担当委員長、大会会長の塚原裕KGA常務理事。

茨城 第2ブロック

平成23年5月16日(月)



フレンドシップカントリークラブ
23年ぶりの自コース開催は
経験ゼロから全員参加で



今大会開催当日の5月16日までは震災後、幾多の困難が待っていました。当倶楽部も茨城県西地区に立地しており、震災当日は震度6強という、未だかつて体験したことのない揺れにより、クラブハウスの天井や空調吹き出し口などが何カ所も崩落し、空調機器そのものも破損するなどの被害が生じたため、震災の翌日より1週間のクロージスを余儀なくされました。

一時は今大会そのものの中止もあり得る状態でしたが、3月末に変更なく正式に開催することが決定し、これまで以上に気合いを入れ、心を込め、一所懸命に準備を進めてまいりました。

当倶楽部でのブロック予選競技が開催されましたのは、遡ること23年前になります。当時を知る者は若干名であり、ほぼ従業員全員が未経験といった状況下で、支配人を中心に「笑顔で帰そう。見せようフレンドシップCCのホスピタリティ」のスローガンを掲げて、職員で構成する特別運営委員会を発足させました。また同時に当倶楽部分科委員会のフェローシップ、競技、ハンデキャップの3委員会を中心に、会員有志の方々を加えた準備委員会(ボランティアスタッフ)を結成しました。この二本柱で情報を共有しながら、円滑な運営を行うために努力を続け、てまいりました。

競技当日は天候にも恵まれ、また怪我人や進行への大きなトラブルもなく、無事に終了することができたので、本当に良かったと思っています。

結果的に競技出場選手の皆様や、各倶楽部関係者の皆様、また応援の方からもお褒めの言葉を頂戴いたしまして、ゴルフ場冥利に尽きることの上なく思いました。と同時に、このフレンドシップCCから、世の中を少しでも元気にすることができたのなら、そして少しでも幸せを感じていただけたのなら、この大会を開催した意味があったと思います。今大会は日本ゴルフ史上においても、特別な大会となったと思われず。

(フレンドシップCC支配人・村山友彦)